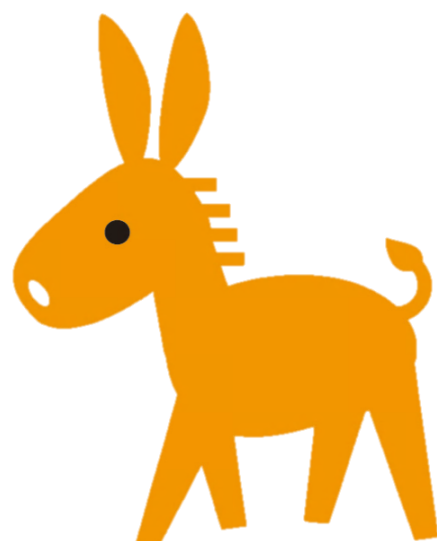


認知症

サポーター

養成講座



認知症のことについて、 学んでみませんか？

開催を希望される場合は、開催希望日の概ね2か月前までに、申込書を提出してください。

対象：市内にお住まい、または通勤、通学する10人以上の団体・グループ

費用：無料

時間：60分～90分程度

会場：市内の会場を、申込者でご用意ください。

※ 個人で参加希望の方は定期的に市民向けの講座を開催しています。詳しくは市ホームページ・市政だよりをご覧ください。長寿はつらつ課(0258-39-2268)へお問い合わせください



認知症の人には、どんなふうに接するといいの？

どんな症状？

★認知症サポーターとは★

認知症サポーターとは、認知症を正しく理解して、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のことです。何かを特別にするというのではなく、できる範囲で活動します。

認知症サポーター養成講座では、認知症に関する正しい知識を身に付けるために、認知症の原因や症状、認知症の方及びその家族への接し方について学びます。講座を受けた方には、認知症サポーターとなり、その証としてオレンジリングと認知症サポーターカードをお渡しします。



○ 講座開催までの流れ

① 申込

所定の申込書に記載の上、もしくは電子申請フォームにて、
開催希望日の2か月前までに申込をお願いします。

【提出方法】紙：持参・郵送・FAX・メール

電子申請：<https://logoform.jp/form/P5EF/203581>

【提出先】長岡市長寿はつらつ課

所在地：長岡市幸町2丁目1番1号（電話：0258-39-2268）

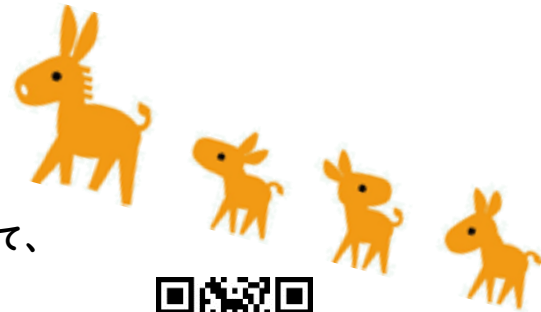
FAX：0258-39-2603

メール：hatsuratsu@city.nagaoka.lg.jp

又は、各支所地域振興・市民生活課（栃尾支所のみ市民生活課）に持参



▲電子申請



② 事前打ち合わせ

講座の講師を担当する担当者（認知症キャラバン・メイト（※））から連絡をしますので、
打ち合わせをお願いします。

※認知症キャラバン・メイト

認知症サポーター養成講座を実施するための認知症キャラバン・メイト養成研修を受講
した講師役の人のことです。



③ 講座開催

○ 受講者の声

どのように認知症の
方と接すれば良いか
分かった

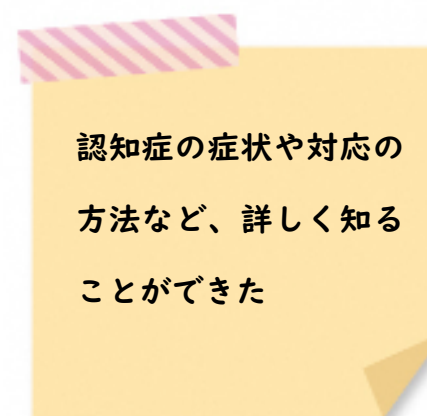
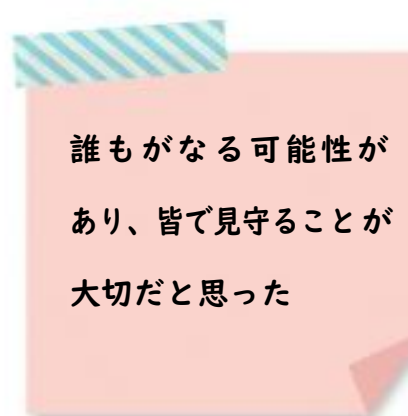
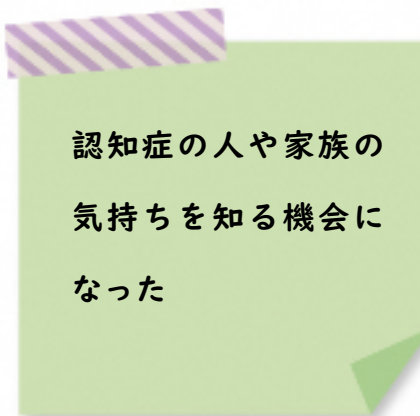
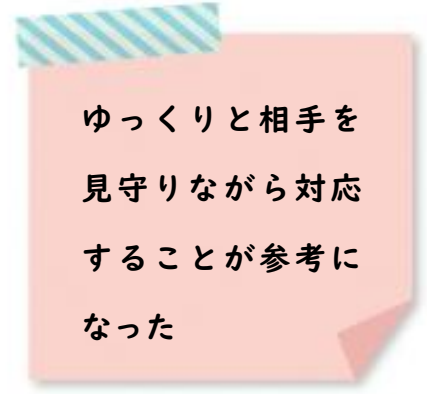
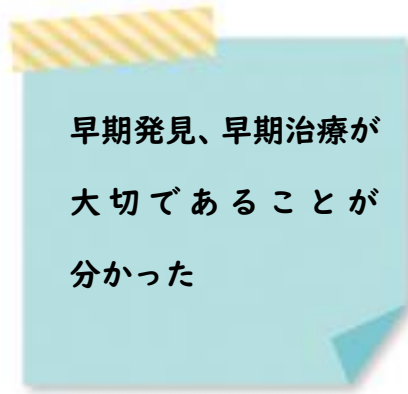
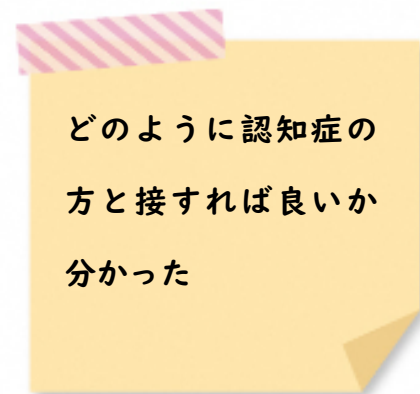
早期発見、早期治療が
大切であることが
分かった

ゆっくりと相手を見守りながら対応
することが参考にな
った

認知症の人や家族の
気持ちを知る機会に
なった

誰もがなる可能性が
あり、皆で見守ることが
大切だと思った

認知症の症状や対応の
方法など、詳しく知る
ことができた



◆申し込み先一覧◆

名称	担当地域	連絡先
長岡市福祉保健部 長寿はつらつ課 (さいわいプラザ内)	長岡、三島	電話：39-2268 FAX：39-2603
中之島支所 地域振興・市民生活課	中之島	電話：61-2015 FAX：61-2030
山古志支所 地域振興・市民生活課	山古志	電話：59-2333 FAX：59-2331
北部地域事務所 保健担当（和島支所内）	和島、寺泊、与板	電話：74-3116 FAX：74-3500
南部地域事務所 保健担当（越路支所内）	越路、小国、川口	電話：92-5011 FAX：92-6942
栃尾支所 市民生活課	栃尾	電話：52-5836 FAX：52-3990

◆もっと知りたい！ 認知症サポーターのこと 認知症のこと◆

認知症サポーターキャラバンとは

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症の人やその家族の応援者である「認知症サポーター」を全国で養成する取り組みです。

長岡市においても、地域住民、金融機関やスーパー、交通、農業などの企業・団体の方、小・中・高等学校の生徒、大学・専門学校の学生など、様々な方が認知症サポーターになっています。



長岡市のホームページに、認知症に関する情報を掲載しています！

認知症についてのアレコレをぜひ、検索してみてください。

- 👉 [トップ](#) > [健康・福祉](#) > [認知症](#)
- 👉 <http://www.city.nagaoka.niigata.jp/fukushi/cate06/>

認知症は誰でもなる可能性がある脳の病気です。認知症になった人は、何もわからなくなる、何もできなくなるわけではありません。認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるよう、認知症の人と家族を温かく見守り、支えることが大切です。一人で抱え込まずに、まずはご相談ください。

